

JR大津駅ビル「使いづらい」 バリアフリー求めシンポ

障害者差別の解消に向けた課題を考えるシンポジウムが3日、大津市役所（同市御陵町）で開かれた。JR大津駅ビルがバリアフリー化していない問題を取り上げ、当事者が「誰もが使いやすい建物になっていない」と訴えた。

2016年秋に大津駅に開業した「ピエラ大津」はエレベーターが設置されていない。障害者や足の不自由な高齢者、ベビーカーを使う母親らに不便な状況となっている。

シンポでは「障害者差別のない『おおつ』をめざす会」代表で、電動車いすで生活する同市の中川佑希さん（28）が思いを語った。「滋賀の玄関口なのに『利用しづらい』という声をよく聞き、残念だ。事前に当事者の意見を把握してもらえば良かった」と提言した。

同会は昨年10月、JR西日本や大津市にバリアフリー化を求める要望書を提出している。

また、16年に施行された障害者差別解消法について、滋賀自立生活センターの垣見節子代表は「社会には障害のある人も含めて、多様な人がいる。そのことを皆が意識しないと、法律は絵に描いた餅になる」と指摘した。

シンポは、同会や市障害者自立支援協議会などが主催。市民約100人が訪れた。

【2018年02月04日 09時51分】



障害者差別解消を考えるシンポジウムで、大津駅ビルの問題を訴える中川さん（大津市役所）

Copyright (c) 1996-2018 The Kyoto Shimbun Co.,Ltd. All rights reserved.

各ページの記事・写真は転用を禁じます。著作権は京都新聞社ならびに一部共同通信社に帰属します

[ネットワーク上の著作権について](#) [新聞・通信社が発信する情報をご利用の皆様](#)に(日本新聞協会)

[電子メディアおよび関連事業における個人情報の取り扱いについて](#)